

化の確立を図ってまいりました。本年もこれらの販売促進グッズを活用し「白神ねぎ」の知名度向上を図っていききたいと思います。

そして、更なる産地としての飛躍をはかるためには、従来の個別経営の転作作目、複合部門としての栽培から、大規模な栽培による園芸主体の経営体を育成する必要があり、「園芸メガ団地整備事業」を活用し、能代市轟地区へ関係者各位のご理解のもと、「白神ねぎ」の園芸メガ団地を整備致しました。「白神ねぎ」生産額の飛躍的拡大を目指すとともに「白神ねぎ」の生産及び情報発信の拠点として、当園芸メガ団地が中核を担えるよう今後、精進してまいります。

みょうがについては根茎腐敗病などの病害の影響により、販売額は9、300万円となりました。今年度は産地維持のためにどのようになら直すか、行政の指導を仰ぎながら対応をしていきたいと思えます。

また、今後収穫最盛期を迎える冬季作物の山うどやアスパラガスの出荷に大きな期待を寄せているところですが。

畜産は飼料が高騰しており、特に肥育牛については素牛価格が高値となっていることから農家は厳しい状況が続いております。しかし出荷額は子牛を除き肥育牛、牛

乳、比内地鶏ともに計画を上回っております。

花卉については、藤里地区で現在2.5ha、6名の農家で栽培されているりんどうが着実に実績を伸ばし、販売額も昨年度を上回る2、300万円となり、生産組合とともに「白神りんどう」特産品化に向けてさらに力を入れております。

平成26年の第137回種苗交換会は男鹿市で開催され、当管内からはねぎ、りんどう、キャベツなどが農林水産大臣賞、県知事賞をはじめ、27点が受賞するなど、天候に大きく左右される厳しい栽培環境の中にあっても品質は高い水準にあることが認められました。市場関係者からは白神産農産物に対する引き合いが強く安定供給に向けた生産拡大が求められております。

今後安全安心な農畜産物の生産拡大を図り、消費者の要望に答えるとともに農家所得の向上に繋げて行きたいと考えています。

農政においては6月、政府は農業の成長産業化に向けて農協改革を決定しました。各JAがおかれている環境・状況が違うわけであり、すべての農協にこのことを当てるのは容易に想像できません。自主・

自立の協同組合であることを基本に組合員の意思に基づく自己改革に取り組みむこととし、持続可能な農業と豊かで暮らしやすい地域社会の実現を目指して総合事業を展開し、農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組みむことが、今後ともJAグループが目指す方向でありさらなる自己改革の実践を加速化していきます。

また、山本地区JA組織再編につきましても、第27回秋田県JA大会決議県内「5JA構想」に基づき協議してまいりました。現在の組織再編研究会では、これ以上の進展が見込めないことから、他地区情勢を注視しながら合併研究会へ移行し、組合員のメリット等のさらなる深堀をすることを、理事会で了承を得ております。これは合併ありきで前に進むのではなく、組合員の皆様と相談させていただくための準備でありまして、今後話し合いを進めご報告申し上げます。まいりますとさせていただきます。

新たな年のスタートに当たり役員一同全力で取り組む覚悟でありますので、本年も皆様の変わりぬご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のあいさつと致します。

- |       |         |
|-------|---------|
| 理事    | 桂 田 忠 雄 |
| 理事    | 佐々木 博 子 |
| 理事    | 池 端 秀 巳 |
| 理事    | 戸 松 義 盛 |
| 代表 監事 | 齊 藤 幸 蔵 |
| 常勤 監事 | 渡 邊 博   |
| 監 事   | 桂 田 和 弘 |
| 監 事   | 市 川 讓   |
| 員外 監事 | 清 水 英 夫 |
| 員外 監事 | 大 山 澄 子 |

本誌をもって、年始のご挨拶とさせていただきます。

